

学校教育目標		校訓(質実・敬愛・勤勉)の実践に基づく『変化する社会で柔軟に対応できる人材の育成』 基本的取組姿勢		年間評価
重点目標		具体的方策(教育活動)		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	具体的評価基準	
学習指導	基礎基本の徹底と応用力の育成(教務)	研究授業や研修会などをとじて教材研究の充実を図り、指導方法の研究に努める。 【今年度の実施状況・課題等】 研究授業や研修会については各学期ごとに実施した。	に物事を考え問題解決のできる人間育成を推進 d キャリア教育や、ボランティア活動等への積極的な参加を推進 e 読書に力を入れ感性や創造力、考える力など社会人として必要な人間力を養う 4 研究授業、研修会に加え、教科を超えた教育力向上の研修会を2回以上行った。 3 研究授業、研修会に加え、教科を超えた教育力向上の研修会を行った。 2 研究授業及び研修会を実施した。 1 研究授業を実施したが、研修会は行われなかった。	2
	円滑な新教育課程の実施と新教育課程の検討(教務)	教科によって大学入試に必要がある場合には新教育課程に検討を加える。 【今年度の実施状況・課題等】 基礎基本の徹底を図るため、平成30年度入学生の新教育課程の見直しを実施した。新教育課程については県が実施した研修会に参加した。	4 検討会を行い、新教育課程及びその実施上の問題点について検討・改善を行った。 3 検討会を行い、新教育課程実施上の問題点について検討・改善を行った。 2 検討会を行い、新教育課程実施上の問題点について検討した。 1 検討会は行ったが、新教育課程実施上の問題点について情報を収集することにとどまらなかつた。 【次年度への改善策】 新教育課程に検討が必要になった場合は適切に対応する。	4
	教科指導充実のための授業時間の確保(教務)	臨時時間割、早めの時間割変更等により、授業時数の確保に努める。 【今年度の実施状況・課題等】 時間割変更願の早めの提出を呼びかけ、対応した。	4 臨時時間割等で、平年同様の授業時数を確保できた。 3 臨時時間割編成、曜日変更、時間変更等を早めに周知し、実施し 2 臨時時間割編成、曜日振替をおこなった。 1 臨時時間割を編成した。 【次年度への改善策】 従来からの授業時間確保と総合的な学習の時間の充実を図る。	3
	生徒の意欲的な読書活動と図書室利用の推進(教務)	生徒の興味・関心のある図書の選定・購入について、より多くの生徒の要望が反映できるようにする。 【今年度の実施状況・課題等】 生徒の要望に即しながら図書の選定・購入を進め、要望の高い図書を購入した。学級文庫により、常に読書が可能な環境作りができた。	4 より多くの生徒の要望を反映できる取組を工夫し、それに即した図書をほぼ90%購入できた。 3 より多くの生徒の要望を反映できる取組を工夫し、それに即した図書をほぼ70%以上購入できた。 2 より多くの生徒の要望を反映できる取組を工夫し、それに即した図書をほぼ50%以上購入できた。 1 より多くの生徒の要望を反映できる取組の工夫をしなかった。 【次年度への改善策】 図書購入に、より多くの生徒の要望を反映できるように、購入希望調査方法について検討を加える。定期的に図書を購入し、読書に供する体制を作りたい。	2
		図書委員会を活性化し、啓発活動を行うことで、図書貸出数の増加を図る。	4 啓発活動を行い、図書貸出数の増加率は、昨年度比15%以上であった。 3 啓発活動を行い、図書貸出数の増加率は、昨年度比10%以上であった。 2 啓発活動を行ったが、図書貸出数の増加率は、昨年度比10%未満であった。 1 啓発活動を行ったが、図書貸出数は昨年度実績にとどまった。 【今年度の実施状況・課題等】 図書委員会の活動は計画どおりに実施した。	3
		【今年度の実施状況・課題等】 図書委員会の活動は計画どおりに実施した。	【次年度への改善策】 図書室の利用マナーを継続して呼びかける。	
	生徒の社会性を育む開発的な生徒指導の取組(生徒指導)	体験活動や講話を実施することにより生徒のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、これからの在り方・生き方を考える機会を設ける。 【今年度の実施状況・課題等】 毎月1回の全校朝礼における校長からの訓話や女性としての生き方を示唆した性教育講演等を開催した。また、ボランティア活動にも積極的に取り組んだ。	4 体験活動や講話を実施し、肯定的評価が80%以上であった。 3 体験活動や講話を実施し、肯定的評価が60%以上であった。 2 体験活動や講話を実施し、肯定的評価が60%未満であった。 1 体験活動や講話を実施できなかった。 【次年度への改善策】 アクティブラーニングを取り入れる等生徒自身が主体的に将来の人生設計を図れるような活動や講話を計画できるようにしたい。	2
	安全指導の徹底とマナーアップに向けた取組(生徒指導)	校門等での指導や校内の巡回指導により安全指導を徹底、服装・頭髪、あいさつ、時間厳守などの基本的な生活習慣について、教職員の共通理解のもと、組織的・継続的に取り組む。 【今年度の実施状況・課題等】 朝の立哨指導における挨拶の励行や服装指導、全校朝礼に臨む態度、適切な言葉遣いや礼儀正しい職員室の入室心得等日々の学校生活の中での言動に節度と品位を保つよう人格の向上に努めた。自転車の交通マナー講習会を開催し、交通安全指導の徹底を図るようとした。また、列車や通学バス利用の生徒にも乗客マナーの徹底を図った。山口地区高等学校合同巡視も行った。	4 毎日、校門(昇降口)指導や敷地内の巡回指導を実施した。 3 週3~4回程度、校門(昇降口)指導や敷地内の巡回指導を実施した。 2 週1回、校門(昇降口)指導や敷地内の巡回指導を実施した。 1 月数回程度、校門(昇降口)指導や敷地内の巡回指導を実施した。 【次年度への改善策】 自転車指導を中心に、公共交通利用マナーの徹底を図りたい。また、公共施設の利用マナーについても指導していきたい。	4
	教育相談活動の活性化(養護・教頭)	校内体制の整備・充実を図るとともに、スクールカウンセラーや専門機関との連携を密接にし、生徒・保護者への相談活動を活性化させる。 【今年度の実施状況・課題等】 スクールカウンセラーとの連携を密にし、相談活動を活性化させた。欠席の多い生徒や担任から相談のあった生徒に対して、担任から働きかけ、生徒にスクールカウンセリングを受けさせることもした。	4 スクールカウンセリングの利用を年20回以上実施した。 3 スクールカウンセリングの利用を年10回以上実施した。 2 スクールカウンセリングの利用を年5回以上実施した。 1 スクールカウンセリングの利用は5回未満であった。 【次年度への改善策】 勉強や人間関係、特に校友や親子関係に対する強いストレスを受けている生徒に対し、より早期に対応することが求められる。カウンセラーは生徒と縦や横ではなく、斜めの関係性であるので、その関係性を有効に活用するため、日々関わりのある担任、部活動顧問、養護教員等による早期カウンセリング利用を勧める声掛けも大切。また、学級担任や学年と連携を密にし、より組織的に対応する必要があることから、次年度においても引き続き相談体制の整備・充実を努める。	4

情報教育	情報モラル・マナーに係る理解の深化と実践力の育成(生徒指導)	教科・情報・生徒指導部と連携し、HR活動等の時間を活用しながら、外部の専門家による指導を含め情報モナー・モラルに関する指導を日常的に行う。	4 日常的に指導を行い、情報モラル・マナーへの理解が十分に得られ、非常に効果的だった。 3 日常的に指導を行い、情報モラル・マナーへの理解が得られ、非常に効果があった。 2 日常的に指導を行い、情報モラル・マナーへの理解が得られた。 1 日常的に指導が行われず、情報モラル・マナーへの理解が不十分だった。	3
		【今年度の実施状況・課題等】 入学式当日生徒本人および保護者を対象に外部の専門家による「ケータイ安心・安全講座」を実施した。また、1年生の授業については「情報」の授業をとおして、携帯電話等のIT機器によるトラブルの予防に努めた。	【次年度への改善策】 専門家による講演だけでなく、生徒が自分たちの問題として捉え、生徒を中心とした取り組み等、生徒の主体的な活動を推進する。例えばHRでの協議や生徒と保護者が連携した研修会および討論会等を開催する方向へ考えていきたい。	
進路指導	高い志を育み、個々の生徒の力を伸ばす進路指導の推進(進路指導)	各学年、進学担当部と連携し、進学意識を育てる。	4 80%以上の大学進学希望者が校外模試を受験した。 3 70%以上の大学進学希望者が校外模試を受験した。 2 50%以上の大学進学希望者が校外模試を受験した。 1 校外模試を受験した大学進学希望者が50%未満であった。	4
		【今年度の実施状況・課題等】 大学進学希望者に対しては、推薦入試のみならず、一般入試でも合格できる力の育成を目標に指導した。当初伸び悩んでいた生徒も、最終的には志望校合格の力を付けることができた。 専門学科においてはカリキュラム上、推薦入試や指定校入試での受験を中心に指導した。	【次年度への改善策】 生徒の学力向上対策として、1・2年次からの計画的な指導を行ってきたが、これは来年度も継続する必要がある。生徒の学力が低迷している原因の一つとして、勉強のやり方が解らない、勉強の絶対量が不足している点が挙げられる。受験に対する意識付けの強化し、早い段階で受験体制に入れるよう指導を行う。 専門学科においては、推薦入試、指定校入試での受験を指導の中心とする。	
		各学年、就職担当部と連携し、就職意識を育てる。	4 100%の就職希望者が就職模試を受験した。 3 70%以上の就職希望者が就職模試を受験した。 2 50%以上の就職希望者が就職模試を受験した。 1 就職模試を受験した就職希望者が50%未満であった。	4
		【今年度の実施状況・課題等】 5~8月就職模試 6月志望理由書サポート講座(3年) 7~8月応募前見学	【次年度への改善策】 今年度は、企業の資料のわかりやすい閲覧を心がけ、また、相談活動の活性化、企業とのつながりの強化に努めてきた。今後は、さらに、各自の希望企業・職種の候補を早期に決定させ、意識高揚と企業研究・試験勉強(面接)につなげたい。また、離職率を下げるために、企業見学や資料提供を積極的に行い、慎重に就職先の決定をする援助をしていきたい。	
健康安全	健康的な生活や生命について考える力・実践する力の育成(総務)	学習習慣の確立と学力定着をめざす。	4 50%以上の生徒が課外授業を利用した。 3 40%以上の生徒が課外授業を利用した。 2 30%以上の生徒が課外授業を利用した。 1 課外授業を利用した生徒が30%未満だった。	4
		【今年度の実施状況・課題等】 部活動と課外の両立に課題があった。8月に部活動を引退後は、気持ちを切り替え受験勉強に集中することができた。希望者の多い学校は、推薦入試も難化しており、学習習慣の確立が不可欠である。	【次年度への改善策】 学習習慣の確立と学習時間確保に向けて、来年度も家庭学習0時間をつくらない指導を継続する。また、生徒に対する声かけと同時に、各教科において課題の提出や生徒の躓きの原因の把握に努めたい。	
健康安全	健康で安全な環境について考える力・実践する力の育成(総務)	実生活に役立つ健康教育の一層の充実を図る。	4 事後評価で、その後の実生活に役立てたいと感じた生徒が90%以上であった。 3 事後評価で、その後の実生活に役立てたいと感じた生徒が70%以上であった。 2 事後評価で、その後の実生活に役立てたいと感じた生徒が60%以上であった。 1 事後評価で、その後の実生活に役立てたいと感じた生徒が60%未満であった。	3
		【今年度の実施状況・課題等】 保健委員会が立ち上がったことで、組織としての保健委員の意識が確立し、クラスへの投げかけなど、積極的になった	【次年度への改善策】 1学期から2学期、さらに3学期への委員が替わったときの引き継ぎがうまくいっていないクラスがあったため、学期ごとに委員会を開いて、活動内容や目的の周知徹底を図る必要がある。	
		各ホームルームにおける朝の健康観察を徹底し、健康状況のより正確な把握に努める。	4 90%以上の日で実施できた。 3 80%以上の日で実施できた。 2 70%以上の日で実施できた。 1 70%未満の日の実施にとどまった。	4
【今年度の実施状況・課題等】 マスク着用の意識が高く、発熱時の対応も迅速であったため、インフルエンザ等の感染症の流行も最小限に抑えられたように思う。	【次年度への改善策】 引き続き教職員への周知徹底をはかり意識を高め、生徒の健康状況の早期把握に努めたい。			
健康安全	健康で安全な環境について考える力・実践する力の育成(総務)	環境美化を徹底するため整美委員会の活動を活性化させるとともに、掃除用具の点検・補充を図る。	4 毎月1回の整美委員による「清掃状況の点検」が90%実施できた。 3 毎月1回の整美委員による「清掃状況の点検」が80%実施できた。 2 毎月1回の整美委員による「清掃状況の点検」が60%実施できた。 1 毎月1回の整美委員による「清掃状況の点検」が60%未満の実施にとどまった。	2
		【今年度の実施状況・課題等】 整美委員による清掃状況の「点検」と「改善」を実施、生徒に周知徹底を図る。また、清掃用具の破損改修および補充により不都合に対応する。	【次年度への改善策】 整美委員を中心に清掃区域での掃除を徹底させ、清潔な清掃の徹底を意識づけたい。	
		換気の徹底等、学校環境衛生の維持に向け、日常点検の徹底を図る。	4 すべてのクラスで十分な換気が行われていた。 3 十分な換気が行われているクラスが90%以上であった。 2 十分な換気が行われているクラスが70%以上であった。 1 十分な換気が行われているクラスが70%未満の実施にとどまった。	3
【今年度の実施状況・課題等】 インフルエンザ、風邪予防など感染症対策とからめて、暖房時の窓開けなどの換気を促したが、まだまだ換気が十分でないクラスもある。教員の指導はもちろんであるが、保健委員会の自主的・主体的活動の活性化が必要。	【次年度への改善策】 学校薬剤師による空気検査等の結果を活用し、具体的な数値や必要性を示すことで、より意識向上を図り、環境衛生面のマナーアップをめざしたい。また、保健委員会活動と合わせ、定期的に校内巡視を行い、さらに改善を図りたい。PM2.5の上昇などで換気できない環境もあり、短時間で有効な換気の方法の指導もしていきたい。			

特別活動	豊かな感性・確かな知性、健やかな心身の育成(特別活動)	企画運営にあたり積極的に生徒の意見・要望等を取り入れ、体育的行事(体育祭・マラソン大会・クラスマッチ等)の一層の充実を図る。	4 生徒の85%以上が体育的行事に満足した。 3 生徒の70%以上が体育的行事に満足した。 2 生徒の60%以上が体育的行事に満足した。 1 体育的行事に満足した生徒が60%未満であった。	4
		【今年度の実施状況・課題等】 今年度の体育的行事は、例年通り生徒の積極的参加で盛況であった。外部の施設を使用している体育的行事が多かったが、準備・片付けにおいても、生徒の積極的な協力が見られた。	【次年度への改善策】 来年度も企画運営については体育委員会の意見を参考にし、全校生徒の積極的な参加を促し、内容をさらに充実させていきたい。体育委員会の組織強化を図り、事前打ち合わせや準備を徹底していきたい。	
		部活動のさらなる活性化により、体育部・文化部の加入率の向上を図る。	4 部活動への加入率が80%以上であった。 3 部活動への加入率が70%以上であった。 2 部活動への加入率が50%以上であった。 1 部活動への加入率が50%未満であった。	
自ら気づき、考え、実行する生徒の育成を目指す特別活動の一層の充実(生徒指導)	各種委員会の活性化を図り、学校生活をよりよいものにする。	【今年度の実施状況・課題等】 生徒会活動を活性化し、各委員会活動や学校行事において、実行委員会等が積極的に活動した。また、生徒も自ら参加する姿勢が見られるようになった。	4 各種委員会が活発に活動し、学校生活を非常に良いものにした。 3 各種委員会が活発に活動し、学校生活を良いものにした。 2 各種委員会が活動するが、学校生活を良いものにしたとはいえない。 1 各種委員会の活動が低調で、学校生活を良いものにできなかった。	3
		【今年度の実施状況・課題等】 生徒一人ひとりの個性の伸長を図り、自己形成につながる支援をしたい。	生徒一人ひとりの個性の伸長を図り、自己形成につながる支援をしたい。	
		HR活動での指導を改善・工夫するとともに、生徒・教職員を対象とする講演会を実施する。	4 事後評価で「とても役立った」「ある程度役立った」と感じた生徒がほぼ100%であった。 3 事後評価で「とても役立った」「ある程度役立った」と感じた生徒がほぼ80%以上であった。 2 事後評価で「とても役立った」「ある程度役立った」と感じた生徒がほぼ60%以上であった。 1 事後評価で「とても役立った」「ある程度役立った」と感じた生徒が60%未満であった。	
HR活動や授業における人権教育の一層の充実(人権教育)	外部講師を招き、生徒への人権意識の向上を図ることは出来たと考えるが、教職員に関しては、不十分であった。	【今年度の実施状況・課題等】 外部講師を招き、生徒への人権意識の向上を図ることは出来たと考えるが、教職員に関しては、不十分であった。	【次年度への改善策】 教職員研修の十分な時間を確保し、全教職員の共通理解による指導体制の確立を図りたい。	3
		【今年度の実施状況・課題等】 外部講師を招き、生徒への人権意識の向上を図ることは出来たと考えるが、教職員に関しては、不十分であった。	【次年度への改善策】 教職員研修の十分な時間を確保し、全教職員の共通理解による指導体制の確立を図りたい。	
		【今年度の実施状況・課題等】 外部講師を招き、生徒への人権意識の向上を図ることは出来たと考えるが、教職員に関しては、不十分であった。	【次年度への改善策】 教職員研修の十分な時間を確保し、全教職員の共通理解による指導体制の確立を図りたい。	
情報発信	ホームページ等による積極的な最新情報の提供(広報)	学校教育活動をリアルタイムに提供し、動画も配信する。また、ロゴマークやマスコットキャラクターを利用して、本校のイメージアップにつなげると同時に創立150周年を学校内外に発信していく。	4 更新のタイミング、内容とも十分満足のいくものだった。 3 更新のタイミング、内容とも概ね満足のいくものだった。 2 更新のタイミングか内容のどちらかが不十分だった。 1 更新のタイミングも内容も不十分であった。	4
		【今年度の実施状況・課題等】 ロゴマークも無事商標登録が完了し、150周年記念行事に合わせて発表することができた。また、中村女子高等学校の歴史を記念誌に載せることによって、本校の存在意義を周知させることができたと思う。ホームページにおいても、リアルタイムに学校の取り組みを発信できた。	【次年度への改善策】 名刺のデザインを一新するなど、ロゴマークを目にする機会を増やしていきたい。また、学科、コース名の変更など、学校の方針が変わることに対して、正確に情報発信ができるように慎重に取り組んでいきたい。	
		【今年度の実施状況・課題等】 月に1回のペースで運営委員会、職員会議等を定期的に開催し、教務を中心として、年間行事検討委員会、教育課程検討委員会、生徒募集検討委員会も数回実施した。	【次年度への改善策】 来年度はさらに充実した内容で運営委員会、職員会議を月1回程度開催するとともに、必要に応じて、各検討委員会も実施し、教育目標の実践、徹底を図っていきたい。	
業務の改善と組織力の強化	【学校の組織等】管理職、校務主任、事務室、専攻科との情報連携(教頭)	学校運営委員会を定期的に開催するとともに、重点目標や具体的方策等を共通にする事で一つの学校としてのさらなる組織力の強化を図る。	4 おおよそ月に2回程度(年間20回以上)学校運営委員会等を開催した。 3 月に1回(年間12回以上)学校運営委員会等を開催した。 2 おおよそ月に1回程度(年間10回以上)学校運営委員会等を開催した。 1 2か月に1回程度(年間6回以上)学校運営委員会等を開催した。	4
		【今年度の実施状況・課題等】 月に1回のペースで運営委員会、職員会議等を定期的に開催し、教務を中心として、年間行事検討委員会、教育課程検討委員会、生徒募集検討委員会も数回実施した。	【次年度への改善策】 来年度はさらに充実した内容で運営委員会、職員会議を月1回程度開催するとともに、必要に応じて、各検討委員会も実施し、教育目標の実践、徹底を図ってしていきたい。	
		【今年度の実施状況・課題等】 月に1回のペースで運営委員会、職員会議等を定期的に開催し、教務を中心として、年間行事検討委員会、教育課程検討委員会、生徒募集検討委員会も数回実施した。	【次年度への改善策】 来年度はさらに充実した内容で運営委員会、職員会議を月1回程度開催するとともに、必要に応じて、各検討委員会も実施し、教育目標の実践、徹底を図ってしていきたい。	
業務の改善と組織力の強化	【勤務状況】教職員の健康管理への十分な配慮(教頭・養護)	年休取得の示唆・奨励や定時帰宅を促す声かけを積極的に行うなどにより時間外勤務が100時間を超える教職員を減らすよう努める。	4 時間外勤務が100時間を超える教職員はいない。 3 時間外勤務が100時間を超える教職員が前年比80%未満になった。 2 時間外勤務が100時間を超える教職員の割合が前年より減少したが前年比80%以上であった。 1 時間外勤務が100時間を超える教職員は減らなかった。	3
		【今年度の実施状況・課題等】 長期休暇や、平日でも勤務に支障のない範囲で、振替休、年休の奨励、日常の定時帰宅を促す声かけを積極的に行った。特に振替休については、年度内有効とした。	【次年度への改善策】 どうしても部活動によっては、顧問の帰宅時間が遅くなるが、短時間でより効率的な指導を各顧問で考え、実施していただく。定期考査期間中や長期休暇中に加え、平日でも勤務に支障のない範囲で、振替休、年休を積極的に奨励していくことで、やらされている感を緩和していく。	
		健康診断における要精密検査該当者へ検診・受診を積極的に勧める。	4 検診・受診が80%以上であった。 3 検診・受診が70%以上であった。 2 検診・受診が60%以上であった。 1 検診・受診が60%未満であった。	
業務の改善と組織力の強化	【勤務状況】教職員の健康管理への十分な配慮(教頭・養護)	健康診断における要精密検査該当者へ検診・受診を積極的に勧める。	4 検診・受診が80%以上であった。 3 検診・受診が70%以上であった。 2 検診・受診が60%以上であった。 1 検診・受診が60%未満であった。	4
		【今年度の実施状況・課題等】 健康診断における要精密検査該当者へ検診・受診を積極的に勧めた。	【次年度への改善策】 近年の教員の負担の増加は顕著で、ストレスなどをかかえながら仕事をしている教員も多い。仕事と休養のバランスをとり、健康管理に努めるとともに、健康診断における要精密検査該当者に対しては検診・受診を積極的に勧めていきたい。	
		【今年度の実施状況・課題等】 健康診断における要精密検査該当者へ検診・受診を積極的に勧めた。	【次年度への改善策】 近年の教員の負担の増加は顕著で、ストレスなどをかかえながら仕事をしている教員も多い。仕事と休養のバランスをとり、健康管理に努めるとともに、健康診断における要精密検査該当者に対しては検診・受診を積極的に勧めていきたい。	